

I N D E X

- 3 卒業生インタビュー  
会議通訳者  
ランプキン 朋子さん（大阪外国語大学卒業）
- 6 OUtピックス  
ホームカミングデー 大阪大学の集い
- 8 卒業生からの寄稿  
私の「阪大のプライド」プロジェクト、第二話  
— 明治初年の大坂にあった幻の「帝国大学」  
— ハラタマの舎密局と仮病院・大阪医学校— その二
- 開 祐 司（理学部卒業）
- 15 輝く！卒業生  
奮闘！阪大生
- 16 海外同窓会ニュース  
タイ 北米 GAF称号授与
- 17 各地同窓会ニュース  
福井 和歌山
- 18 キャンパスニュース  
大阪大学未来基金「阪大腸活プロジェクト」
- 19 インフォメーション  
2020年卒業生・同窓会イベントのご案内



開 祐 司 先生



ランプキン朋子さんとインタビューの二人



大阪大学未来基金「阪大腸活プロジェクト」を実施

通訳だから触れられる世界  
「面白い」を原動力に

会議通訳者

*Tomoko Ranpkin*

会議通訳者として活躍するランプキン 朋子さん。米シアトルを拠点に、政府や国際会議、民間企業などの重要な会合で通訳を務め、2014年には米オバマ大統領と天皇后両陛下（当時）の懇談を担当した。通訳という仕事に必要な資質や醍醐味、これからの時代に求められることなどを、阪大の職員2人が聞いた。

**いきなり飛び込んだ通訳の世界**  
— 今日はお会いできるのを楽しみにしていました。まず、大阪外国語大に入学したきっかけからお聞かせください。

**ランプキン** 英語がやりたい気持ちが強くなりました。日本に対する閉塞感があり、学生のうちに海外に行きたいという思いも。「学問としての英文学ではなく、実際に使える英語を習いたい。それやったら外大でしょう」という感じでした。

**— どんな学生生活でしたか？**  
**ランプキン** あんまり健全ではなかったです（笑）。当時キャンパスがあった上本町の喫茶店で、何時間も友人たちとしゃべってたりとか。サークルはE.S.S.で、ディベートなどに打ち込みました。

**— 通訳者になろうと意識したのは？**

**ランプキン** 最初から通訳になりたかったわけではなく、高校の時、同時通訳に関する記事を読んで「面白そうやけど難しそう、私には無理やろう」と思っていました。外大を卒業後、英語が上手になりたくて、奨学金（東西センターEWC）をもらってハワイ大に留学しました。EWCの会議室の同時通訳装置を使ってミーティングをすることになり、そこで「通訳をやれ」と言われて務めたのが初めて。



いきなり飛び込んだようなところがあります。その後、1989〜90年に京都に滞在した時、日本はバブル経済のさなかで通訳の需要が高かった。うまくマーケットにはまっていたり、いろんな人と仕事をやる機会を得たり、東京の通訳者とのネットワークができました。

—口ぶりの通訳で大変なことはどんなことでしょうか。

**ランプキン** 話をしている人が考えていることや思っていることを、聞いた人の頭の中にどこまで再現できるかということです。単に「DOG」だから「犬」という言葉の置き換えだったら、それはA-Iが既にやっています。「この文脈でこの人がこう言っている」ということは、こういうことを意味しているんだろう」と、聞いた人にわかるようにアウトプットして初めて、人が介在している意味があります。

—では、大切にしていること、心がけていることは。

**ランプキン** 創作をしないことです。聞き逃した



—英語上達のコツはありますか？

**ランプキン** 日本人が苦手な発音を識別すること。特にLとRの区別に苦労するのは、日本語にその区別がなく、かつローマ字のラ行をRで表記しているから。外来語のラ行はLで考えた方がよい。ラ行の発音は舌が口蓋に付き、ローマ字で表すと「R」ではなく「LA、LE、LU、LI、LO」なんです。これは日本語を学ぶ外国人にも言える。音声学的には色々議論があるのは承知していますが、プラクティカルな観点からは何としても、ラ行のR表記はやめてほしい。

そして、関係代名詞が出てきた時、文章の前の方から順に理解すること。世間では関係代名詞でつま

り、わからへんかったというところが出てきたら、そこは訳さない。若い人のトレーニングでも「創るな」と言います。創作の世界に陥ると、アウトプットはきれいに聞こえますが、嘘をついていることになりす。

—米オバマ大統領と天皇后両陛下(現上皇上皇后両陛下)が懇談した時のお話をぜひうかがいたい。

**ランプキン** あのような機会に恵まれたことは幸運でした。オバマ大統領は、私が通訳として同席した時は必ずといっていいほど、相手に「何か運動はしていますか」と聞きました。オバマ大統領も「シエル夫人もエクササイズフリークですし、おそらく彼にとって『安全な話題』だったのでしよう。運動したくても時間がない」と答えにくそうにされる方が多い中、天皇后陛下は「私たちは時間を見つけて宮内庁職員とテニスをします。そもそも私たちが偶然に出会ったのは軽井沢のテニスコートなんです」と自然に即答されました。両陛下は、通訳者を本当に丁寧にあつてくださった。懇談が終わって、オバマ大統領の車列を最後の1台まで見送られた後、こちらに連れて来て「今日はありがとうございました」と。こんなことをされた方はほかにありません。さすがだなと思いました。

## 人が介在することの意味 II 「付加価値」

—外国語を学ぶ学生にとって、通訳はあこがれの職業です。

**ランプキン** 私自身、「通訳なんかならんほうがえぞく人も多い。文が長くなるほどしんどくなるんです。動詞が出てきたらそこで切つて理解して、それで問題はありません。

## 常に世の中への好奇心を

—仕事で落ち込むことはありませんか？

**ランプキン** いっぱいあります。技術的な話を十分理解できなくて「今日で私の通訳人生は終わりだ」と頭を抱えたことも。

—どういふふうに対応するんですか？

**ランプキン** 通訳者というのは、細かいところが気にならないと務まりません。でも、あんまり引きずるタイプでもあかんです。嫌なことがあっても、さつと忘れて、次はしっかりと勉強するとか、ポジティブに変換しないと。ずっと落ち込んでしまう人は向いていません。どんな仕事もそうかもしれませんけどね。

一方で仕事の弊害として、家族からは「人の話を最後まで聞かない」と非難されます。同時通訳をしていると、最後まで聞かなくても話の筋が見えるわけですよ(笑)。子供にそう責められて、「もうちょっと簡潔に話せ」と言い返したり。職業病ですね。

—ストレス発散はどのように？

**ランプキン** 運動は大事です。仕事には移動がついて回るし、時差もある。先日のブラジル出張も、夜行便で行って、翌日の夜行便で帰ってきました。本当に体力勝負です。自宅のあるシアトルでは毎日泳ぐようにしていますし、もつとヨガもやりたいですね。

えで」と学生時代に誰かに言われました(笑)。人の言ったことを繰り返しているだけ。自分で考えて、何かを自分で作り出すほうが達成感や喜びも大きいのではないかと。

—でも、文化の壁を乗り越えて、互いに誤解のないように訳さなくてはなりません。



—「通訳をやっていると良かった」と思う時は。

**ランプキン** 通訳をやっているから会える人、聞ける話があります。最先端の話題や、企業の経営者が次に考えていることなど、面白くて、職業冥利に尽きます。2010年にトヨタの豊田章男社長が米議会公聴会で証言し、その年に豊田社長とテスラ社のイーロン・マスク社長が会うことがありました。通訳をしていなければ、こんな人たちの会話に耳を傾けるチャンスはありません。この仕事をしていて良かったと思いました。

通訳に必要な資質は、社会のいろんなことに興味や好奇心を持てるか、その話題を面白と思うかどうか。それに尽きると思います。一つの仕事が終わってから新聞を読んでいて、「この前の話につながるやん」と気づく。そうやって知識や情報が蓄積されていき、また次回の仕事に役に立つ。一見関係のないようなことも、つながっていると思えるか、そういうことに関心があるかどうか、重要だと思えます。

—今日は貴重なお話をありがとうございました。

## ランプキン 朋子(ランプキンともこ)

1974年大阪外国語大学英語学科卒業、ハワイ大アメリカ学修士。米国務省契約通訳者などを経て、現在は国際会議や政府関係、民間企業海外IRなどの会議通訳者として活躍。2014年4月に米オバマ大統領と天皇后両陛下の懇談、15年4月にはオバマ大統領と安倍晋三首相の会談で通訳を務めた。



## ■インタビュー

共創推進部 産学共創課 小林加奈(大阪外国語大学卒業)  
共創推進部 渉外課 田中秀憲(経済学部卒業)